

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

かわいい子には

先日、国民的アニメキャラクターの声優さんが老衰のため90歳でお亡くなりになりました。1979年から2005年までそのキャラクターの声を努められましたので、この期間にこの方の独特の声質で育った方も多いのではと思います。

さて、この声優さんの独特の声質は作られたものではなく、地声に近いものだと思います。なので、思春期には、自分の声に自信がもてなくなったそうです。

しかし、お母様がそのような我が子の様子を見て、自分に自信がもてない子になってほしくないと、声を出す部活動を勧められたそうです。

そこで入部されたのが放送部だったそうです。初めは周囲から入部に反対の声があったそうですが次第に何も言われなくなったそうです。

さらに声優をされる前には俳優としての活動もされていたそうです。

もし、お母様が我が子のコンプレックスをかばうがあまりに「声を出す必要ない」とか我が子の声を不憫に思ってしまったら、私たちはあの唯一無二の声をしたキャラクターに会えなかったかもしれません。

子どもたちは成長過程で悩んだり迷ったり、時に傷ついたりします。その時家族から「がんばれ！」と背中を押してもらうのが子どもとしては一番心強いのではと思います。がいかがでしょうか。

「乳児の時は肌を離さず、幼児の時は肌を離して手を離さず、少年の時は手を離して目を離さず、青年の時は目を離して心を離さず」と言われます。子どもたちが自信をもって自立していくための大人の在り方を示しているかと思えます。

頌徳祭

小栗地区の子どもたちへの教育環境の充実を通して地域貢献をされた先人の遺徳を偲ぶ頌徳祭を10月18日に開きました。このような催しを行う学校に諫早市内で過去2校勤務したことがあります。そう考えると諫早の先達は教育の重要性をお考えになり、後世に続く人的財産こそ、ふるさとを発展させていくことにつながるのだという熱い思いをもたれていたのだらうと思います。

10数年前、離島勤務をしていた時、地域の方が小中学生に「いつか島を出る時が来るでしょう。島を離れても、その地からふるさとのためにできることをしてくれたら嬉しい。そのために今しっかり勉強してほしい」という趣旨のことを話されていました。

子どもたちが将来の基盤をどこに据えるかはわかりません。しかし、この地で学び、この地で育ったことが子どもたちの人生にいくらかでも寄与できるように、学校でも学業をはじめ諸活動に取り組んでいきたいと思えます。

